

「親子で行く みなと学習見学会」の開催について

日時 平成16年7月27日（火）9：00～16：00
場所 釧路港
主催 NPO法人北海道みなとの文化振興機構
後援 釧路市・釧路開発建設部
協賛 釧路港安全連絡協議会・釧根地域港湾・漁港技術研究会

この取り組みは、夏休み期間中に、道東地域の産業活動を支える物流・生産基盤としての釧路港と周辺施設等の利用状況を親子が肌で感じてもらうことによって、暮らしに重要な役割を果たしてきた港の役割を再認識していただくと同時に、みなと空間のあり方というものを親子で考えるきっかけとなるような想いを意識して開催したものです。

当日の参加者は、子供30名を含む18組で総勢48名の参加者となり、8時20分頃からリュックやバッグを持った親子連れが三々五々スタート会場「まなぼっと」に詰めかけてきました。

当日の主なスケジュール

- ・ 9：00～12：00まで生涯学習センター「まなぼっと」で学習会の概要と行程説明、東港の現況と周辺施設及び釧路の水産について学習します。
- ・ 12：00～12：40までローロー船神泉丸の船内を学習見学し、「西港建設合同庁舎」に移動し、昼食後、13：20～14：00まで会議室で西港の概要説明及び記念植栽（釧路市主催）を参加者全員で行います。
- ・ 14：00～15：50まで西港の建設と利用状況の学習及び日本製紙釧路工場を学習見学した後、16：00までに「まなぼっと」に戻り解散します。



ローロー船 神泉丸の学習を終え参加者全員で記念撮影

スタートは、「まなぼっと」での受付、参加者の確認作業を行った後、田中理事からの挨拶と本日のスケジュール、港の現況などを説明し港内学習に出発しました。

今日一日の行程の中で印象的だったのは、西港でローロー船と呼ばれる荷物を車両に積んだまま運べる貨物専用船「神泉丸」(12,000トン)の船内に入り、操舵室やこの日製造されたばかりの大きなロール状の新聞用紙やトラックの荷台がそのまま船内に運び込まれる様子を身近に学習見学出来たことでした。

参加者の一主婦は「船の大きさにびっくり、めったに見学できないので貴重な体験ができました」と感想を述べていました。

また、日本製紙の工場学習では、パルプを作る行程や紙を作る行程について説明していただきました。中でも、古紙を原料にして(全体の約70%)パルプを作る行程の説明には、多くの参加者が、予め配られたパンフを見ながら興味深く聞き入っておりました。

予定の学習コースを終え、「まなぼっと」でアンケート用紙を回収しました。

参加者48人中(内2歳の幼児1名を含む)46人の回答があり、「親子でいくみなと学習見学会に参加した感想はいかがでしたか」という設問には、40人が「おもしろかった」1人が「おもしろくなかった」5人が「どちらでもない」という結果でしたが、「みなとにいったことがありますか」という設問には、「ほとんどいかない」と「いったことがない」は31人にのぼり全体の67%を占めました。

また、この31人の内20人が子供の参加者だったということも分かりました。

他の設問事項を含めたこのアンケート結果は、私どもNPOスタッフにとって、みなと空間のあり方を探るという視点から考えると貴重な傾向を示すデータとして受け止め、今後の活動に活かしていく必要があるのではないかと感じております。

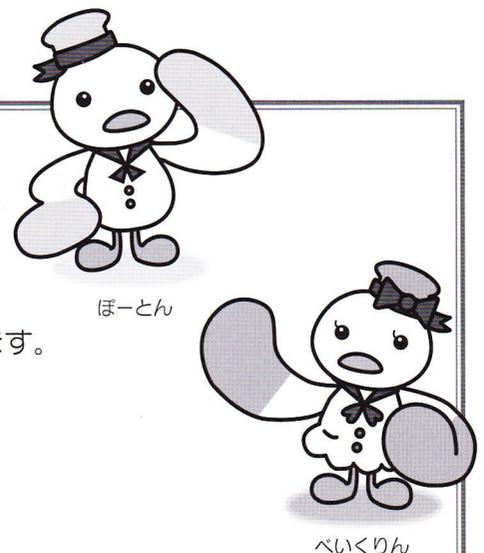
このあと、全員に今回の「親子でいくみなと学習見学会」参加を記念して「ぼーとん・べいくりん」のぬいぐるみセットを配りました。

参加者の親子からは、かわいい!! ありがとう!という声が上がリ大事そうに受け取りながら、明るい雰囲気の中で学習見学会を終了することができました。

*ぬいぐるみの自己紹介

よい子の皆さん今日は、ようこそいらっしゃいました。
 私たちはみなとのマスコットです。
 小さな赤ちゃんのカモメを思い出してね。
 ピンクのお洋服を着た私は、女の子でべいくりんと言います。
 空色のお洋服を着た僕は、男の子でぼーとんと言います。

また、みなとであいましょうね。



最後になりましたが、この企画を実施するに当たり、後援、協賛していただいた関係機関及びこの取り組みを支えてくれました現地のスタッフ一人ひとりの暖かい気配り、そして事業最盛期にもかかわらず社員を派遣してくれました会社のご協力に深く感謝申し上げます。

なお、後日この「みなと学習見学会に行って」と題する感想文が事務局のほうに5通寄せられましたのでご紹介いたします。

富原小学校4年生 増田和馬

ぼくは、みなと学習見学会に行って、知らないことがいっぱいありました。

たとえば、ケーソンっていうものはなんなのかとか、ケーソンは、どうやって作るのかなどが、知らなかったけど、このみなと学習見学会に行ってわかりました。

ケーソンを見たあとに船に乗りました。船では船の周りにしようがいぶつなどがあるところはレーダーが船の中であってそのレーダーでかんち出来るそうです。

最後に日本製紙に見学に行きました。中でも一番びっくりしたことは、紙ができるまでです。なぜかというときいしょは、えきで紙を作って水をしぼる、それからかわかして、表面をきれいにし、まきとる作業がすごいなと思いました。

今日は、いろいろと勉強が出来て楽しかったです。

共栄小学校5年生 笹野成美

私は、親子でいくみなと学習見学会に参加して、すごく楽しかったです。その中で、特に楽しかったのは、マリン・トボスクしろと神泉丸に乗ったことと日本製紙工場を見学したことです。マリン・トボスクしろでは、コンピューターのゲームをしました。魚のクイズにチャレンジして、何回か当たりました。次に神泉丸に乗ったことです。神泉丸の中はとても広く、大きかったです。また、その中には大きな機械もありました。

西港の建設状況でケーソンを作っているのを見ました。ケーソンは、すごく高くて大きいです。私は、作っている人達がすごく高いところで仕事で



「マリン・トボスクしろ」の館内学習見学の模様

※マリン・トボスクしろ～釧路市水産資源資料展示室

きるんだなと思いました。

最後に日本製紙工場の中を見ました。中は熱く、いろいろな雑誌やまんがの本があってびっくりしました。あとどこの場所に行っても説明がむずかしかったので、もっと分かりやすくしてほしいです。

芦野小学校5年生 梶原郁也

7月27日に親子でいくみなと学習見学会に行きました。

釧路の歴史や昔のみなとの様子がいろいろと勉強になりました。

神泉丸という貨物船を見ました。ふだんはあまりみなとに行くことがないので、船を見ることがあまりありませんでした。

こんな大きな船で仕事が出来るといいなと思いました。

西港で見たケーソンの製作現場は、話を聞いてもよく分かりませんでした。

最後に行った日本製紙工場は、学校の社会見学でも行ったことがあるので説明も分かりました。お父さんが工場の中のニオイがにがてだと言っていました。

ぼくは、まだあまり釧路のことが分からないのでこれからもっと勉強したいと思います。



□ー□ー船 神泉丸の船内学習風景

富原小学校5年生 伊藤優希

私は、父とみなと学習見学会に行きました。

最初はスクリーンで港の周りのしせつの事について説明してもらいました。でも、私には少しむずかしくてあんまりわかりませんでした。すると、説明していたお兄さんが私に、「海と言えはなんだと思う?」と質問しました。突然の質問だったので私は、「漁業」と答えました。でも、はっきり言って話がかたくなるしくてぜんぜん聞いていませんでした。それからバスに乗っていろんな所を見学しました。

ケーソンの製作現場では安全のためにヘルメットをかぶりました。周りを見るとたくさんの鉄の棒が組み合わさっていました。こういうものはあまり見れないので、すごいながめでした。ちょっと下を見ると鉄の網だけで、その下には海がありました。その網の上におおぜいの人に乗っているので、

私は少しこわくなりました。

それから説明してもらってすごいと思ったことは、あんなに重いケーソンが海に浮かぶことです。ケーソンはそんなに軽いのかなと思ったけど、いくら説明を聞いても分からないので父に聞きました。すると、底がある箱のようなものなら何でも浮かぶのだそうです。

それに、ローロー船という船にも乗りました。とっても大きい船でした。いろいろなところを見学して私の思ったことは、海にかんする仕事は大変だなということです。

なぜなら、とっても大きなケーソンを造るのに危険な場所に行って仕事をしたりしてるし、ローロー船はたくさんの貨物を運んだりして大変だからです。

私は、協力しあうから大変なこともできるんだと感心しました。



ケーソン製作現場での学習風景

富原小学校6年生 増田侑記

ぼくは、みなと学習見学会に行き、いろんなことを知りました。

その中でも特におもしろかつたのは、紙の工場を見学したことです。工場に入ると中はとても熱く、すごいインクのおいがありました。ほかの場所では、すでに紙ができあがっていました。その紙は、ふつうの紙より少しかたかったです。

その紙は、新聞紙や雑誌などに使われるそうです。ぼくは、紙が出来るまでのことを知りとても勉強になりました。

今日は、家族と行って楽しい一日でした。



釧路市主催の記念植栽(フラワーポート事業)を終え全員でツーショット

第5回「みんなのMINATOフェア」が開催されました。

日 時 平成16年7月18日（日）～19日（祝）
 開催時間 10：00～18：00
 会 場 札幌ファクトリー・アトリウム広場
 共 催 (財)港湾空港建設技術サービスセンター北海道支部
 NPO法人北海道みなとの文化振興機構

ステージ・イベントスケジュール

18日(日) ～マジックショー・海のお天気講座（日本気象協会祐川予報士）
 「中村征夫海中写真展」「港のパネル展」
 19日(祝) ～中村征夫トークステージ「海も天才である」
 「中村征夫海中写真展」「港のパネル展」

中村征夫プロフィール～水中写真家として国内外の海を精力的に取材し、数多くの話題作を発表。ライフワークの東京湾をはじめ、水俣湾、石垣島、諫早湾など社会性のあるテーマに果敢に取り組む水中の報道写真家として定評がある。

「海の日」私たちの港のこと、そして海についてみんなで考えよう、と題するこの取り組みは、共催団体を代表して、百瀬治（財）港湾空港建設技術サービスセンター北海道支部長の開会挨拶で幕を開けました。

会場は、18日と19日の2日間にわたり盛だくさんのイベント構成で開催され、来場者の滞留をほどよく回転させる工夫が功を奏し、親子連れや友達同士と思われる人達で終日賑わいました。

最後は、共催団体のNPO法人北海道みなとの文化振興機構、田中敦幸理事の開会挨拶で楽しい雰囲気の中、2日間にわたる催しの幕を閉じました。



第5回みんなのMINATOフェア会場風景



中村征夫トークステージの様様

NPO北海道みなとの文化振興機構監事大澤克幸氏が平成16年7月20日おなくなりになりました。（享年71歳）

茲に、ご逝去を悼み謹んでお知らせいたします。

大澤さんは、優れたバランス感覚と的確な決断力を兼ね備え、目の奥からは、いつも優しいまなざしで周囲を包み込み、職域や年齢を超えた多くの人達から尊敬され慕われてきました。

永年にわたり、北海道の地域の発展に尽くされたご功績に深く感謝し、心からご冥福をお祈りいたします。

平成16年9月現在の会員数のお知らせ

正会員（団体）70社 正会員（個人）185人 賛助会員 11団体